

令和8年度使用教科用図書採択検討委員会 特別支援教育専門部会議事録

日時 令和7年(2025年)7月16日(水) 15時30分～16時30分

場所 横須賀市教育研究所 会議室

1 開 会

2 教育委員会事務局挨拶

教育委員会学校教育部長

こちらの会議では採択の原案の作成をお願いいたします。8月の教育委員会の会議では、採択検討委員会の案をもとに審議され、採択が行われます。どうぞよろしくお願いいたします。

特別支援教育の教科書調査においては、一人一人の教育的ニーズに応じた教科書、一人一人の多様な学びに寄り添う教科書という観点で調査を進めてこられたのだと思っております。限られた時間の中、調査いただき、ありがとうございます。

第1回目の会議でも確認させていただいた採択基本方針では、公正かつ適正を期し、すぐれたものを採択するとされており、教科書採択には、公正かつ適正な手続きが求められております。子どもたちにとってよりよい教科書の採択がなされるよう、本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。

3 専門部会長挨拶

特別支援教育専門部会長

本日は令和8年度教科用図書採択検討委員会にご多用の中ご参加いただき、ありがとうございます。調査部会の皆様には、大変ご尽力いただき、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。子どもたち一人一人にとってよりふさわしい教科書を採択できるように有意義な会にしていきたいと思っております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

4 調査報告(進行:部会長)

(1) 養護学校(小学部・中学部)

(養護学校調査委員)

養護学校は令和7年度小学部22名、中学部12名、計34名の児童生徒が通学しています。常時、医療的なケアや人工呼吸器を必要とする児童生徒や、視覚障害があり今後盲学校に進学を希望している児童、軽度の知的障害があり、将来的には地域の小中学校に転学する可能性がある児童生徒など、在籍する児童生徒の実態は様々です。

児童生徒の多くは車椅子等を利用して生活しており、個々の課題はそれぞれ異なり、選択する教科書も異なります。視覚や聴覚、触覚など様々な感覚を意識し、児童生徒の関心を引くような附則9条本「一般図書」のニ

ーズが高いです。

また、教科の目標のみならず、将来の進学や就労、余暇活動を意識しながら生活の中での実践や行事などにつながるものや、文字の認識や音声言語のみでイメージすることが難しい児童生徒のために、手や動物などが動いたり、形を変えたりする仕掛けのある図書の採択を希望して提出しています。以上です。

(2) ろう学校（小学部・中学部・高等部）

(ろう学校調査委員)

本校の児童生徒は少人数ですが、一人一人の子どもの実態は異なるため、学部、教科担当、担任で話し合い、各教科書を決めています。

普段から、担任を中心に教科担当で児童生徒の目指す姿や、そのために必要な学習について意見交換を行い、児童生徒の成長、学習状況を学部全体で共有しており、それらの意見を参考に決定しました。次年度の教科用図書も、一人一人の実態に合った教科用図書を選択できたと考えています。以上です。

(3) 特別支援学級

小学校

(小学校調査委員)

小学校特別支援学級の令和8年度使用教科用図書の採択希望は、文部科学省書作本については、国語が2冊、算数が3冊、附則第9条本については、国語が9冊、算数が10冊の採択希望がありました。

附則第9条本は、「ゆっくり学ぶ子のための」という同成社シリーズと、こぼと出版の「ジャンプアップ」や「ステップアップ」シリーズへの採択希望が多くありました。

他にはあかね書房の「たのしくおぼえるあいうえおえほん」や、岩崎書店の「ペネロペいまんじ？」などの採択希望がありました。

採択希望のあった本は、児童の発達段階に合わせて、スモールステップで言葉・文字・数・数字の習得がなされるように工夫されていました。

また、文字が大きく、挿絵も多く、色彩豊かなものであると共に、生活に即した内容で構成されているため、児童が興味を持って楽しく学べる内容になっていました。以上です。

中学校

(中学校調査委員)

今年度は、国語・数学・社会・理科に関して☆本の採択希望がありました。どの教科も、日常生活や学校生活に生かしやすい内容であること、挿絵や図が多く使われていて、生徒の理解がしやすくなるような工夫がされていることから、採択希望があったと考えられます。また、知的障害部門の生徒を対象に作られているため、学年に関わらず、生徒の障害の程度や理解に合わせて使うことができる点が、採択希望があった理由と考えられます。

一般図書に関しては、国語、数学、理科、職業・家庭、保健体育、英語において採択希望がいくつか挙がっていました。「くらしに役立つ」シリーズは、昨年度に引き続き、5教科で採択希望が出ていました。実生活に結びつく内容を、段階を踏んで学習できる点が、将来の自立や社会参加を目指す特別支援学級に在籍する生徒への学習ツールとして、授業者の立場からもニーズがあるのだと考えられます。イラストが多く、状況をイメージしやすい工夫がされていたり、生徒にとって難しい用語を避けて記載されていたりするなど、学習しやすいつくりになっています。また、学習内容が身に付いたか確認しながら、学習を進めることができる点も反復学習が必要な生徒の多い特別支援学級の授業で活用しやすいのではないかと考えました。以上です。

5 質疑応答

(1) 養護学校（小学部・中学部）

（検討委員）

先生の説明で趣旨がよくわかりました。一人一人の児童生徒に合わせて採択されたのだと思いますが、実態がわからないため、教えてください。お子さんの数が小学部22名、中学部12名で、国語は22冊選ばれている。基本的にお子さん一人一人に合った教科書を個別に支給するというイメージになりますか。

（養護学校調査委員）

はい。児童生徒一人一人の実態が異なるため、基本的に児童一人一人に合わせたものとしています。

（検討委員）

社会は10冊となっていますが、社会は10人に支給ということなのか、それともグループで同じものを使うという実態があるのですか。

（養護学校調査委員）

基本的には一人一人に合ったものを使用していますが、社会が10冊になっているのは、同じ教科書をAさんとBさんのどちらも合うと考えて採択をしたという状況もあります。また、同じ教科書を複数の児童生徒が希望している状況もあります。

(2) ろう学校（小学部・中学部・高等部）

（検討委員）

ろう学校も一人一人に合わせた採択ということでよいですか。

（ろう学校調査委員）

その通りです。

(検討委員)

インターネットで調べたところ、国語の一般図書で、「音の出る知育絵本」というものが選ばれているが、ろう学校なので、「音の出る」というところがどういう意味なのだろうと思いました。それについて説明していただきたいです。

(ろう学校調査委員)

子どもによって自分が持っている聴覚の能力をどのように生かして生活を送るか、それを自立活動に繋げています。人工内耳や補聴器を使いながら学習している児童生徒がほとんどなので、それぞれが持っている聴覚を活用できる実態を考え、このような教科書を選ぶことになりました。

(検討委員)

書写で「コロロメソッド」のものが選ばれています。この教材は自閉症のお子さんを対象につくられたものだが、自閉症に限らず、知的障害のお子さんや発達障害、ろう学校のお子さんにも役立つことがあるのでしょうか。そのあたりを教えてほしいです。また、カードで学習するメリット、有効性がどのくらいあるのかについて教えてほしいです。

(ろう学校調査委員)

実態としては、短文を作ってそれを表現することを練習する際にカードで助詞の使い方を学習しています。カードを入れ替えることによって様々な表現ができます。カードを当てはめて自分の行動や気持ちを表せることが、自閉症や自閉的な傾向がある子どもに限らず、この教材が子どもにとって学習しやすいということで選んでいます。

(検討委員)

ろう学校のお子さんは助詞が苦手ですから、よくわかりました。

(3) 特別支援学級（小学校・中学校）

(検討委員)

小学校に2点お聞きしたいです。「ステップアップ」、「ジャンプアップ」と「ゆっくり学ぶシリーズ」が出ていますが、この教科書を選んだ学校は複数校で出ているのでしょうか。また、この教科書が選ばれた、使いやすさの理由について具体的に教えてほしいです。

(小学校調査委員)

「ステップアップ」、「ジャンプアップ」は1校が選んでいます。「ゆっくり学ぶシリーズ」は複数校で選んでいます。選んだ理由は、視覚的にイラストが多くわかりやすい、実生活に沿ったイラストがたくさんあるため考えやすい内容ということから選んでいます。

(検討委員)

そういう理由であれば、中学校でも小学校の内容の教科書が合っている生徒もいるので興味があり、質問しました。ありがとうございました。
(検討委員)

今の質問に関連して、それぞれの学校で希望されたものを先生方が事務局となり集約して、ここに出しているのですか。

「ステップアップ」、「ジャンプアップ」は1校で、「ゆっくり学ぶシリーズ」については2校。それでは、一般図書を使っているところの方が少ないということですね。

(小学校調査委員)

「ゆっくり学ぶシリーズ」は2校でなく5校くらいありました。すみません。

(検討委員)

それでも全体に比べると少ないですね。それ以外のところは検定本を使っているのですから。

(小学校調査委員)

交流級と同じ内容の学習をする学校もたくさんあります。

(検討委員)

その場合には、同じ検定本を使うことになります。そうすると、おそらく国語、算数以外はみんな交流級の検定教科書を使っているということになりますね。

6 全体を通しての意見や感想

(検討委員)

こちらに挙げられているものは、普通級で使われている教科書とは別に、更に学習しやすくするために、教科書だけでは足りないということから一般図書を選んでいると捉えていました。思っていたより一般図書が少ないことにすごく驚いています。一般図書以外に教科書も併用して学習するのかなど、その度合いが全然わからないのですが。

(小学校調査委員)

これまでの指導で積み重ねてきた教材をその児童に合わせてピックアップして使用したり、使い分けて使用したりしながら学習しています。

(検討委員)

() 委員に補足すると、先生が自作したその子に合ったプリント教材を使って学習を進めることが多いです。使えるツールの一つとして一般図書があるというのは、子どもたちにとって学習の教材が増えていくと捉えていただき、その視点で採択しているということで考えていただくとよい

と思います。

7 答申内容の原案決定

(部会長)

それでは、この内容をもって採択検討委員会に報告したいと考えるが、よろしいか。

〔はい、という声あり〕

異議なしと認め、この内容をもって採択検討委員会に報告する。

8 閉 会